

ここから先へ行くと、Big Room といわれる世界最大の地下室へ着く。起伏はかなりあるが、とにかく約800m先までが見え(照明した場合)、床の広さは14個のフットボールフィールドに相当する。ところどころに座れる場所がある。説明文を読むと、ここにしばらく座って考えろとある。巨大な地下洞の異様な空間を見ていると、何千万年、何億年という年月の歩みが重くのしかかってくるようである。天井の高さは20~30mないし数10mもあり、最も高い所では、ワシントンの連邦議会のあの大きな建物を上回るという。

石筍の美事さも相当なものである。オペリスクのように細長いもの、クリスマスツリーも顔負けするようなきれいなもの、月世界を思わすような景観が展開する。色もさまざまである。全体に白っぽいことは当然であるが、赤味を帯びたもの、少し青っぽいものなどが単調さを破ってくれる。

約4時間の地下旅行中、たくさんのレインジャーに会った。女性のレインジャーもいる。毎日たくさんの人に会うというのに、皆きわめてあいそがいい。すぐ向うから話しかけたり、あいさつしたりする。管理人であるとともに、説明指導員でもあり、また人々の心を豊かなものにしてくれる親しい友人といった感じである。見張り番なのだけれど、そうと感じさせないところが本当に美事であった。

## 師 と 友 と

岡 田 久 美 子

「卒業20周年のクラス会よ」といったら、我が家の子供達はとんでもなくびっくりした顔をした。改めて親の年令を教え、顔のしわを眺めたに違いない。

ともあれ、或る爽やかな初夏の日の午後、遠来の友を迎えて、何年振りかしら……という珍しい顔も揃い、互いにひとときの歓を尽くすことが出来たのは嬉しいことであった。飯本、赤木、松井の三先生には、お出まし難いところを請うて御来駕頂き、神宮の森にほど近い、前栽を配した和室にくつろいで、ひとりひとりの近況やら、昔語り賑やかな話の花が咲いた。

齢80を数えられる飯本先生が、テレビの語学講座で新たにお勉強と伺っては、怠け者一同背筋を正さざるを得ない。在学中赤木先生が、私共を如何に“ご婦人”として慎重に取扱って下さったかを知り、改めて恐縮したり……。また松井先生の何時に変わらぬ温顔は、20年の歳月をすっかり忘れさせて下さる不思議な力を持つ。師とは、こちらがいくつになっても或るよりどころを惜しみなく与えて頂ける存在であるらしい。

転じて我々とはといえば、勤続20年、今や貫禄充分の社会科主任殿。大学生の息子とよろず対等にやり合っているステキなママ。更には国の内外をあちこち歩き廻って来た人等々……。旅の話は殊に楽しい。思えば学生時代からよく旅行に出掛けたクラスだった。勿論正規の巡検だけで満足する筈はなく、モグリの巡検を折にふれては計画し、実行に移した。九州にも行ったし、北海道にも足を延ばした。開聞岳の頂上で聴いた長閑な鶯の声や、洞爺丸台風で荒れた噴火湾の波濤などが、今も耳に残っている。

とにかく、「出掛けたがる習癖」と「食べたがる習癖」とは、20年を経過してもなお聊かも衰え

ることなく、毎年夏休みともなれば万障繰り合わせて、数日間は夫も子供も放り出し、必らず何処かへ打ち揃って出掛けている。また、地方から誰か出て来たり、その他何か一寸した口実が見つかる。「〇〇でも食べない？」のひとことで、見事にパッと集まる。そして、20年の間それぞれの道を歩み、異った経験を積み重ねて来ている友との話題は、尽きることを知らない。仕事のこと、家庭のこと、さまざまな人間関係のこと……友との他愛のないおしゃべりの中から、キラリと閃めく貴重なヒントを与えられたことが幾度あったろうか。本当に友達とは、嬉しく懐しく、そして有難いものである。

(3回生)

## 近 況 報 告

北 村 紀 子

小学校から十数年も通い続けた反動という訳でもありませんが、卒業以来学校にはすっかり御無沙汰で、この十七年一度も校門をくぐらず過ぎてしまいました。ほの暗い地理の教室での四年間は、はるか昔の出来事となり、地理とは全く縁なき生活で、娘に何の為に大学で勉強したのと言われる仕末です、その間夫の転勤と共に、大阪、東京、名古屋と移って、子供も高一と小六になりました。この母親ではあまりいい見本にはならず、娘には一生続けられる仕事を持ってほしいと思っています。

名古屋に来て二年たちました。すき間だらけの日当りの悪い家で、冬の寒さには閉口しましたが(冬 冷蔵庫を開けると外より暖い空気が出て来る有様)それでも結婚以来初めての木造の家での生活は、子供にとっても得がたいものと楽しんでます。

団地での地面からへだてられた空間に較べると、まあ同じ広がりの中に何と生活する生き物が多いのかと驚かされます。蚊、ハエ、蜂、毛虫、蟬、油虫、ナメクジの多さに悲鳴をあげ、所かまわぬクモの巣、又小さなアリ達は、一寸油断すると、わっとばかりに現れて、その行列はみているだけであきません。大きな柿の木に御機嫌になっていたら、暑さと共にイラガの毛虫が大発生、黄緑で毒針つきのを毎日何百匹と殺して閉口しました。

今は冬空に残った柿の赤い実にヒヨドリ、メジロが群れています。町中に近いのに隣が林なので、野鳥が多く、ここに来て始めて本と首っ引きで名前を覚えました。

冬こたつに入って見ていると、ガラス戸の庭をまるで舞台の様に、上手から下手から次々に色々な鳥が登場し又退場して行きます。二羽でチッチッとお尻ふりふりにぎやかに来るのはウグイス、アオジは雨上りに地面をつついて現れます。他の鳥が餌場に寄ると必ず低空飛行で突っ込んで来るヒヨドリは、夫婦の一方が餌台に上ると片方は必ず側の枝で待っています。メジロは大勢でにぎやかになるし、丸々太って食いしん坊のツグミはおっかなびっくりチヨコチヨコ小走りに出てきてさっと逃げていきます。小授鶏のけたたましい声に驚いたり、鳥達にはずい分楽しませてもらいました。今年の五月にはたった一日だけカッコーが来て朝から日の暮れる迄鳴いて子供達は感激、私も姿を始めてみました。

カッコーをうつつに聞くは幼き日五月の 仙台の朝以来なり